

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4272300247		
法人名	有限会社 カワトタイル		
事業所名	グループホーム よこせ	ユニット名	
所在地	〒851-3509 長崎県西海市西海町横瀬郷2762-2		
自己評価作成日	2025年 2月 20日	評価結果市町村受理日	2025年 4月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topijeyosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2025年 3月 14日	評価確定日	2025年 3月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ここ西海市の横瀬には海や山と自然豊かな立地の中で、とてもどかな環境にあり、地域の方にも恵まれており、その中でグループホーム よこせ が地域の方のご支援を頂きながら、入居者様の生活がゆっくりとした時間の中で営まれる環境を目指し、認知症の方にとっては役割の喪失や社会性との断絶されることの恐怖と戦っている中、本来人間が持つべき関係性や社会性といった側面を大切にかかわらせて頂きケアを提供することで本来その方が持つその人らしさを基に生活して頂きたい。たとえ認知症になってもその人らしさを核を見つけ出し大切にケアを提供させて頂く思いと、グループホームは施設ではなく第2の家としてご家族様が会いに来られる時には実家に帰る、親戚の家に遊びに行く感覚でふらっと寄れる場所を目指してスタッフ一同日々努力しております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホームよこせ”は2025年に開設20周年を迎える。優しい運営者と代々の管理者（ホーム長）の元でスタッフは結束し、プロとしてのケアや地域交流を密に続けてこられ、地域にとって大切な存在となっている。2025年4月1日から運営体制（運営者）が新しくなるが、ホーム名、管理者、スタッフ体制、ケア内容等の大きな変更はなく、馴染みの関係で日々の生活を送れる予定である。新しい運営者も親身に職員の思い（不安）に寄り添ってくださり、更なるケアの効率化に向けた改善等も始まっている。新しい運営者が「診療看護師」でもあり、医療連携も強化できている、往診可能な医師との連携もできるようになった。2025年2月に救急対応の病院が車で10分の場所に新設したことで、重症化・終末期に向けた体制も整えている。地域行事も再開し、敬老会・市道清掃等に参加するとともに、小学生との交流会、中学生・高校生の職場体験も受け入れている。元旦マラソンの際は、ほぼ全ての入居者と応援することができ、保育所の園児との交流も楽しまれている。日々の役割も大切にされており、洗濯物たたみや野菜の下ごしらえ、食器洗い、おしほりだみ等をスタッフと一緒にされており、いつも「入居者の方々に助けられている」ことを感じ、感謝の思いを伝えている。今後も認知症の症状についてより一層の勉強に励み、「プロとしての対応」と「より良いケア」の実践に向けて全スタッフで取り組まれていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取り組みの成果	↓ 該当するものに○印	項 目		取り組みの成果	↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や支援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を共有し、日常生活援助を気にかけています。また地域との関わりも常に念頭に置き実践しています。	入居者の方々の思いや性格、生活歴等をスタッフは理解し、理念にある「共に助け合い共に生きる」に繋げている。入居者の方々と一緒に掃除や洗濯、調理の下ごしらえなどを行うように努めており、「出会えたことの喜びとこれからの一生を大切に」した関わりを続けている。	2025年4月1日から新体制となり、スタッフ全員で新たな理念を考える予定にしている。今後も新しい理念を共有し、日々の実践に繋げていきたいと考えている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に積極的に参加し、今年度は近隣の中学生の職場体験の受け入れができ、今後は保育所との交流も再開できる計画があります。	地域の方から野菜や果物の差し入れがあり、地域行事（敬老会・元旦マラソン応援・小学生との交流会、中学生・高校生の職場体験、消防合同訓練等）に参加している。2024年度は中学生の職場体験学習として3日間で2名来て頂き、保育所の園児の方々も来てくださった。入居者が手作りした貼り絵を保育所の園児や小学生にプレゼントし、子ども達からも年賀状を頂いている。今後も更に保育所との交流（運動会、夏祭り、芋ほりなど）ができることを願っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に当ホームの入居者様が参加されることで、認知症の方との交流ができ、地域の方からの「私もそのうちお世話になります」と冗談交じりで会話ができ、必要とされていることを実感します。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、日常生活の状況をご報告させていただいていますが、まだ不十分ですので、来年度は困難事例等に参考意見を取り入れて、サービス向上に繋げて行きたいと考えています。	コロナ禍は書面会議を行っていたが、対面での運営推進会議が再開し、入居者の方々も参加されている。会議録に日々の暮らしの写真（玉ねぎの収穫風景）等も載せており、マラソン応援、柏餅づくり等の行事や日々の取り組み、消防訓練等の情報交換を行い、アドバイスをいただいている。市の方にも直接質問でき、すぐに対応していただけるので有難く思っており、他の参加者の方々からも色々なご意見を頂いている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的に取り組んでおり、ホームでの取り組みについても報告し理解を得ていると思います。	管理者が市役所を訪問した際や運営推進会議の場で、災害対策や消火栓等の相談を行い、アドバイスを頂いている。処遇改善加算や補助金（交付金）の申請等に係る相談も行い、親身に対応してくださっている。地域包括が主になり、施設協主催で「セラピスト派遣のモデル事業」があり、リハビリ職（PT・OT・ST）による日常生活動作の確認と、入居者の方々に合った改善策やアドバイス等をいただいた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常日頃から入居者様の思いに寄り添い、スタッフ会議等で周知し、アニマルセラピーの一環で猫を飼っており、なるべく外に出さないように玄関の施錠は行っております。	「身体拘束は絶対にしない」方針であり、認知症の理解を深め、基本理念と身体拘束等の適正化のための指針で日々のケアの振り返りを続けている。「虐待防止委員会」と「身体拘束廃止委員会」を開催し、長崎県権利擁護研修等の内容を伝達している。職員も不適切ケアに関するアンケートを書き、振り返りを行うとともに、職員のメンタル面にも配慮し、語尾が強くない取組を継続しているが、今後も更なる取組みの必要性を感じている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	指針を基に勉強会を行い虐待防止に努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象の方はいらっしゃいませんが、今後制度について学んでいきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みや入居時の契約時に十分に説明を行っております。また今後は、状況の変化に伴い再説明を行えればと考えています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの要望等は全スタッフで情報の共有に努めております。またその都度対応にも努めております。	2025年度から運営体制が変わる事とともに、職員やケア内容の変更はなく、医療面の更なる充実に繋がること等を家族の方々に報告している。日々の生活では面会（玄関）や電話で情報交換しており、ご本人が書かれた手紙を面会時にお渡ししたり、請求書に同封している。外出や外泊、旅行等の要望を家族から伺い、家族と一緒に叶えるようにしている。今後もホーム便りを再開し、日々の生活と取組みを報告していく予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議等で情報や意見の相互交換が行われています。スタッフの提案は貴重な意見として捉えています。	管理者が主となり、職員個々の良いところを引き出し、更なるスキルアップに繋げるように努めている。2025年4月から運営者が新しくなるが、管理者、職員、日々のケア内容等は継続される予定であり、更なる医療連携の強化、電子介護記録の導入、必要な物の修理や購入なども早々に始められている。職員の不安要素を解消するために、今後についての説明を経営者から受けることもできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在の人手不足が根底にある状況ではありますが、管理者はスタッフ個々の状況を理解し、その対応を個別に行いながら向上心を持って勤務できるように図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は特に重要と捉え、積極的に学んで受けてもらえるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設連絡協議会を通じて同業者や他の職種との交流や研修等により、サービスの質の向上に向けた取り組みが来ています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期や中期の他利用者との関係等に気配りを行い、ご本人が生活しやすいように努めています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居していただく段階で、ご家族様の不安なことや要望等を傾聴し、その都度ご家族様の相談業務に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを重要視し、主治医と連携を図り、スタッフ間で共有し支援に繋がっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設理念に掲げて生活支援を気にかけています。また介護される側を自分事としてとらえています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護は社会的支援の役割として、介護する側や介護される側と区別するのではなく、ご家族様と共にご本人を支えていける関係づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	多様な生活歴を発見し、そのことを介護生活に活かすように心がけています。またご家族様により散髪に馴染みのお店に連れて行ってくれています。	日々の会話で生活歴や馴染みの場所等を教えて頂いている。長年生活していた場所をドライブで巡り、海のそばに行くと「ここで父ちゃんが潜りよったとよ。ウニやアワビ、サザエは採って来よったとよ」など、その時の思い出に浸られており、心の「拠り所」や「安らぎ」を感じる機会になっている。スタッフも一緒に自宅で過ごされたり、娘さんと自宅で昼食を食べられる方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全スタッフで協力を得ながら孤立無援にならないように努めています。またリビングの席も気の合う人と一緒に座って頂く様にしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退居された方で、しばらくの間どのように生活されているのか確認を行っています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやホーム内でのサービス、行事に気を付けて、入居者様の様子に留意しサービスの向上に努めています。	日々の生活の中で何気ない会話や仕草、表情等をスタッフ間で共有している。ご本人の特技、好きな物、趣味等も把握し、「果物（みかん）を食べたい」「買い物に行きたい」「〇〇が心配なので、病院に行きたい」「美容室に行きたい」等の要望を家族と一緒に叶えるように努めている。今後も畑作りを再開し、入居者の方々の思いや意向を大切に生活にしていこうと予定である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの充実に、ご家族様、ご本人と十分に話しをして把握に努め、毎年、毎月その方の状態の変化を確認し合っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ会議等でスタッフ一人ひとりの気づき等の意見を広く求めて、それをアセスメントに落とし込み共有し活かすように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当学会議を中心に通院介助等で主治医の意見、ケアマネの意見を参考に、モニタリングを通じて介護計画の見直しを行うように努めています。	管理者、介護支援専門員、スタッフ全員でアセスメントをしている。生活歴（仕事・趣味・特技等）とともに、洗濯・買物・調理などを含めた能力や意欲等を把握している。アセスメントの各活動の一番右に「ご本人の思い」を記載できる欄があり、「ひとりでお風呂に入りたい」等を記載している。「草むしり」「裁縫」「折り紙」などを続けていけるよう介護計画に盛り込み、喜びを感じていただけるようにしている。介護計画には移動時の留意点なども記載しており、前々回の外部評価以降、日課計画表も詳細に作成されている。新しいソフトも導入予定である。	①今後も詳細な認知能力、心理・行動障害の症状と原因等の記載を増やしていく予定であり、ご本人本位の解決策をアセスメントに増やしていく予定である。 ②ADL（座位保持・立ち上がり・両足立位・移動等）の能力とともに、家事活動も含めた「できそうなこと」「解決策」を追記し、アセスメントとケアプランの整合性を整えていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録ではスタッフの思いは多様性があるので、スタッフ会議を通じて見直しを行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域との交流や他施設の取り組みを参考に、柔軟な支援やサービスの多様性を持ち取り組みに努めています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生や小学生の職場体験を通じて入居者様の暮らしが喜びに代わり豊かな暮らしとなればと努め、今後も地域資源を把握しながら入居者様の暮らしがもっと豊かになればと考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様による受診の支援が得られない時はスタッフによる受診を行い、主治医の指示を受け日常生活に活かし、体調の変化や体調不良の際は主治医の指示を受ける様にしています。	日々の体調で気になる事は、管理者が主になり家族に連絡し、早期受診に繋げるように努めている。受診時は職員や家族が同行し、日々の体調などを主治医に報告している。体調に応じて減薬に繋げる事ができ、主治医から具体的なアドバイスを頂いている。2025年4月から往診（月1回）と訪問看護（週1回）が開始し、スタッフの安心になっている。緊急時の往診と訪問看護も受けられ、歯科医師（歯科衛生士）の往診もあり、日々のケアに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには看護師が居ない事から必要に応じてかかりつけ医の看護師や主治医よりアドバイスを受けています。また今後は看護師との連携が見込まれているので、より良い支援に繋がると思っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時、スタッフが同行し情報共有や相談を行い、時には電話等で状態報告のうえ指示を受けたり、入院中の方の情報は病院関係者との多職種連携に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様にご説明をし理解を頂いており、必要に応じて主治医に相談を行い、ご本人・ご家族・ホーム内でも話し合いを行うようにし、幾度となく連絡をするように努めています。	「できるだけ長く、ここで暮らしたい」と希望する方が多い。新しい運営者が「診療看護師」でもあり、2025年4月から「主治医と訪問看護と連携しながら、終末期に向けたケアが行えるように努めていきます」という方針に変更されている。医療ニーズ（点滴等）が高い方は適宜主治医に相談し、必要時は特養の入居手続き支援をさせて頂いている。救急医療病院が新設し、急変時の早々の搬送が可能となっている。	今後は新しい運営者（診療看護師）を中心に、「終末期ケア」等の勉強会を行うとともに、ご本人と家族との話し合いも密に行っていきたいと考えている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルをいつでも確認できるようにして対応していますが、今後も訓練等を行い備え、実践に繋げています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	今年度も、消防訓練では地域消防団や地域住民の方々のご協力を頂きながら合同訓練を行う事が出来ました。今後も災害時の訓練も机上訓練や炊き出し訓練を入れて対策に努めて行きたいと考えています。	毎年11月9日（防災の日）は、消防団や地域の方と一緒に夜間（19時）の訓練を続けている。BCP（事業継続計画）を作成し、防災チェックも毎日行っている。雪対策で貯め水等もしており、災害に備えて感染対策備品（消毒液、マスク、手袋、ガウン等）、飲料水、飲料水以外の水、米、レトルト米、食料（缶詰、インスタント麺等）、懐中電灯、停電時の補助電源（45分使用可能）等を準備し、電気水道工事業者「やまでん」から発電機を貸与する手配もできている。	①今後は消火栓を用いた訓練を行う予定であり、BCPの検証（見直し）に繋げていきたいと考えている。 ②管理者が施設協の理事になっており、今後も行政や隣接した施設との連携を強化し、実際の災害時に有効活用できる体制に整えていく予定である。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人ひとりの価値観を大切にしながら、全スタッフで適切ケアへの改善に努めています。	家庭的な雰囲気大切にしながら、慣れ合いになり過ぎないように留意しており、研修やスタッフ会議等で日頃のケアや言葉かけなどの振り返りを行っている。方言も使いながら、笑顔で丁寧な言葉遣いを心掛けているが、不適切なケアや言動が聞かれた際は、職員同士で注意を続けていく予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から入居者様の思いを大切にし、思いを傾聴しやすいように気がかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	サービスの実施の際、入居者様が心地よく生活して頂くために行動や表情に留意し、思いを確認し支援に繋げる様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の状況に応じ理美容にご家族様により行かれたり、ホーム内で対応し、着替えなどもご本人の意向を聴いて支援にあたっています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理の下ごしらえをして頂き、季節に応じて行事食メニューを提供し、楽しんで頂けていると思います。	食前に嚥下体操を行い、嚥下状態に応じて小さめにするなどの配慮を続けている。2025年4月から3食「宅配」に変更となるが、冬は刺身を提供し、エタリイワシの骨取り、ツツやじゃが芋の皮むき、柏餅作り等、入居者の方々の役割は継続していく予定であり、下膳、テーブル拭き、茶碗洗い等もして下さっている。今後は畑作りの再開を検討しており、芋や大根作り等を一緒に楽しめる予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が少ない方にはご家族様にご協力頂きながら、ご本人が好まれる飲み物を持って来て頂き、水分摂取量の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけ、洗面所での口腔ケアや歯科往診による入れ歯の維持や口腔環境の状態把握に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に排泄パターンの把握に努めていますが、まだ十分に行えていたとは言えません。	下着を着用し、排泄が自立している方が多く、必要の方はトイレ誘導している。失禁予防体操を行い、陰部清拭も毎朝している。失禁状況に応じ、いきなりリハビリパンツに変更するのではなく、少量用のパッドを使用する等の検討も続けている。今後も自然排便に繋がるよう、排便状況の確認とともに、ケア内容（食事、運動等）を更に検討していく予定である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防の対策は十分とは言えず、特に運動による働きかけが十分行えておらず、お薬に頼っているのが現状です。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の体調や気分をくみ取り入浴支援を行い、気持ちよく入浴して頂く様に努めています。	お風呂好きな方が多く、湯舟に浸かる方も複数おられる。入居前から「湯船に入るのが怖い」という方もおられ、ご本人の希望でシャワー浴をされている。できる範囲はご自分で洗われており、ご自分のシャブーを使用する方もおられる。入浴時は職員との談笑や歌を楽しまれ、菖蒲湯や柚子湯等も楽しまれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運動やお昼寝の時間にゆっくり過ごして頂き、ご家族様の面会や外出等に留意し安心して頂けるように心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確認に確認を重ね、名前・日付や服薬のタイミングを確認しながら誤薬防止を特に留意しながら努め、服用の仕方などもかかりつけ薬局と連携を取り、その方に合った処方の工夫をさせて頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや野菜の下ごしらえ、食器あらい、おしぼりたたみ等のお手伝いをスタッフと一緒にして頂き、ご本人の希望を聴きながら行うように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	ドライブ等は少なくなっているが、家に帰りたいとの希望のある方を庭先までお連れしたりしました。	長閑な環境であり、日向ぼっこや散歩を楽しまれている。四本堂公園で桜の花見、大島や横瀬西、近くの船着き場へのドライブ、エレナや佐世保等で買物を楽しまれている。家族と美容室や自宅（外出・外泊）に行かれる方もおられ、家族との1泊旅行（温泉）を楽しまれる方もおられる。コロナ以前は馴染みの商店の特売日に、砂糖や味噌の買物と一緒に行かれていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様との外出で好きな物を買ったり、スタッフと病院受診に行った帰りに買い物に寄って、ショッピングを楽しまれております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が電話をしたい時には、ご家族様とお話しが出来る様に支援し、ご本人が書かれたお手紙を面会時にお渡ししております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて写真や飾り物を替えて気持ちよく過ごせる空間作りに工夫しています。	朝は窓を開けて換気し、西日対策で日差し除けのカーテンを利用しており、空気清浄機や加湿器等も活用している。ソファを新調し、テレビが2台に増え、入居者同士の関係性に配慮し、リビングのテーブルの配置や間仕切り等の工夫をしている。職員とゆっくり会話を楽しめ、日々の活動（洗濯物たたみ、テーブル拭き等）も一緒に行っている。今後は終末期ケアに向けて、浴室の改装を検討している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人、二人、共にご自分の居場所を求めお好きな場所でゆっくりと流れる時間に身を任せ過ごされ、玄関前のソファでは小学生の帰宅の様子を眺め和まれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にご本人が使いなれた物を持って来て頂けるようにご相談させて頂いており、ご自分で制作されたものを飾ったりして落ち着ける場所になる様に工夫しています。	居室には家族の写真、家族からの寄せ書きや手紙、お孫さんの書いた似顔絵等も飾られており、馴染みの棚・机・タンス・いす・布団や枕・化粧品・テレビ等を持ち込まれている。写真やポスター、手作りの作品、貼り絵や塗り絵等で飾りつけの工夫をしている。職員は「掃除」を意識し、環境整備に活かすように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ、廊下には物を置かないようにしていますが、感染対策として空気清浄加湿器を設置しており、歩行の妨げないように配慮し、トイレにはその方が理解できるように「おしっこ」や「便所」等に工夫しています。		